

H.26 年度 ふるさとの川増殖事業 生き物調査 in 槻川 (小川町パトリアおがわ裏)



現地会場にて、「生き物調査」開催直前に、主催者スタッフ一同の撮影。

左より

- ・馬場さん(協議会役員)
- ・山本(正)さん(〃)
- ・白石さん(〃)
- ・伊得さん(武蔵漁協 組合長)
- ・関森さん(県水産研究所 副所長)
- ・山本(悦)さん(協議会役員)
- ・山本(実)さん(〃)
- ・撮影者:渡辺(〃)



イベント開催チラシ、小川町エコクラブ会員の呼びかけにより、約25名の児童と保護者15名の参加があった(合計約40名)。

伊得さん・渡辺から、主催者として「開会挨拶等」を行った。

生き物調査を開始するに当たり、主催者スタッフとしての注意事項、活動エリア、安全確認などを行い、イベントスケジュールを説明した(白石さん)。



トラロープで、安全区域を設定された区間にて、一斉にタモ網を手にして、槻川に進入。やや、冷たさを感じる。

狙いは、ツルヨシ群落の岸边や中州付近をガサガサすくい、魚類(稚魚)や水生昆虫などを採捕する。



協議会の「県・川の国アドバイザー」
（馬場さん）より、水生昆虫の採集方法の指導を受け、河原の石礫の裏返し作業を行う、女子児童たち。

羽化が終わっている時期につき、全体に小ぶりの水生生物が多かった。



河原から採集された石礫裏から、水生昆虫や付着生物をトレイに採集し、種類の同定作業を行った（山本・馬場さん）。

使用するルーペは、LED ライト付き×5倍の新型機種。



前日より仕掛けられた簡易網にて、水揚げ・採捕された魚類（オイカワ、ウグイ、カワムツ、ギバチなど）の展示水槽前で、体験学習する児童たち。



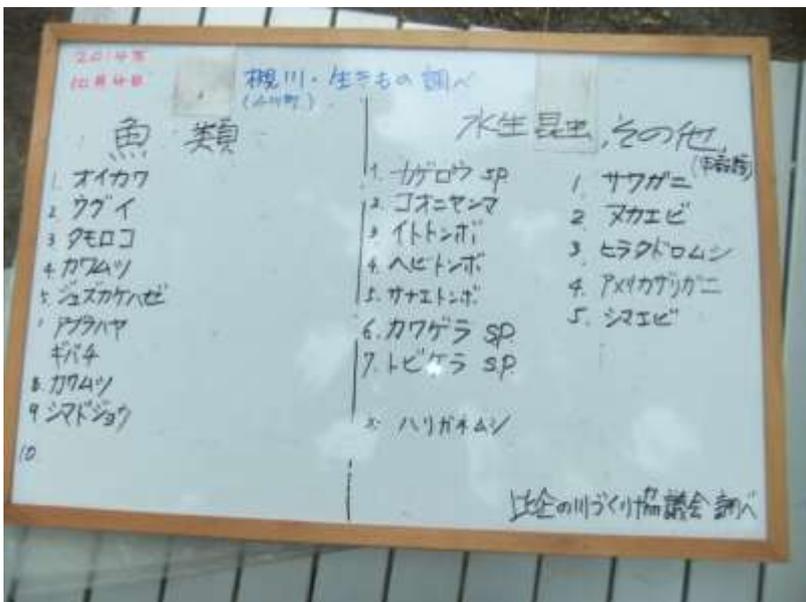
体験学習する児童たちの人気の魚類は、オイカワ、ジュズカケハゼなど。大人の人気魚類は、ギバチ、ウグイであった。

アユは採捕されなかったが、特定外来生物（バス類、ブルーギル）も、採捕されなかった。



簡易図鑑を基に、ルーペを使用して採集した水生昆虫類の観察・同定を行う児童たち。

水中から酸素を取りだす「エラ呼吸」の構造を念入りに観察していました。



本日の生きもの調査で確認された魚類、水生昆虫類、甲殻類等は、簡易ボードに記載されたとおり。

魚 類：9 種類
 水生昆虫：7 種類
 甲殻類：5 種類
 その他：1 種類（線虫類）

写真・報告者：渡辺